

来週の「売り物記事」はこれ

2018年3月30日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

追悼と復興 ある母親の思い

4月1日(日)



東日本大震災の発生から7年余り。多くの被災自治体が毎年3月11日に追悼式を開きますが、参列者は減少しています。遺族の高齢化や転居の影響もありますが、あえて足を運ばない人もいます。式典で「追悼」と「復興」がセットで語られることに違和感を抱いてきた仙台市の小野奈央(なお)さん(43)＝写真＝もその一人。亡くなった娘をいつも思いながら生きてきた7年間をつづります。

筆者は仙台支局の山内真弓記者です。



激変する食マーケット 「外食」「中食」の境界打破

スーパーがレストラン化する？

夕刊特集ワイド 4月3日(火)



レストランなどで食事をする「外食」、調理済みのお弁当やお惣菜を買って食べる「中食」、家で料理をつくる「内食」——。これまで分かれていた食のかたちの境界線が、消えつつあります。例えば、大型スーパーに客が飲食できる空間が設けられ、売り場の食材を使った料理を提供する。いわば「店食」。そんな試みも始まっているのです。人口減少が進み、縮む日本人の胃袋をどう満たすか。食のマーケットの挑戦と変貌をレポートします。

親ありて 柔道・阿部兄妹の両親

くらしナビA面 4月4日(水)

2020年東京五輪の柔道で兄妹そろっての金メダルが期待される阿部一二三選手(20)と妹の詩選手(17)。努力型の兄と天才型の妹とタイプは違いますが、2人を支えたのが父の浩二さん(48)と母の愛さん(46)です。2人を育てる時に特に気をつけたのが「技術指導よりマナー」。五輪出場を目指すため、柔道以外でストレスがかからないよう気を配りました。



グレーヘアで自分らしく セカンドステージ

くらしナビA面 4月1日(日)



シニア世代が知りたい情報を月ごとにテーマを設けて伝えるコーナー「セカンドステージ」が、毎月第1～第3日曜日に始まります。4月のテーマは「すてきにエイジング」。初回は白髪を自然なこととして受け入れ、「グレーヘア」を美しく楽しむためのコツを、メイクやファッションを含めて紹介します。グレーヘアを格好良く見せるポイントとは……。

山は博物館 それは戦時下だった 環境面 4月4日(水)

日本最高峰・富士山。第2次世界大戦中、その山頂でひそかに軍事研究が行われていました。目的は、軍用機パイロットの心身に高高度が与える影響を知ることでした。新連載「山は博物館」は、日本各地の山が持つさまざまな側面を紹介する、いわば「知的登山ガイド」。まずは戦時下の山々に注目して掘り下げます。月に1回のペースで掲載します。



センバツ、いよいよクライマックス

紫紺の優勝旗の行方は

一面、スポーツ面など 4月4日(水)に決勝(予定)



高校球児たちの熱い戦いが続く第90回記念選抜高校野球大会も、いよいよ終盤。31日にはベスト8が出そろい、翌日に準々決勝、休養日1日を挟んで準決勝、決勝へと進みます。これまでのところ西日本勢の学校の健闘が目立ちますが、東日本勢で強さを見せているのが東海大相模(神奈川)。初戦に12得点、2戦目は8得点と2試合連続2桁安打という前評判通りの強打を發揮して、8強まで勝ち進んでいます。紫紺の優勝旗を目指し、大会はいよいよクライマックスを迎えます。

連載「幻の科学技術立国」

科学面 4月5日(木)から

「科学技術創造立国」を目指してきた日本ですが、近年、論文の発表数など「研究力」を反映する各種指標は低下し、中国など新興国が急速に台頭してくる中で、存在感を失いつつあります。新連載「幻の科学技術立国」では、現場を歩きながら衰退の原因を探り、再生の道を考えます。第1部は「『改革』の果てに」と題し、政府が実施してきた施策を検証します。



文学逍遙

4月7日(土)から



文学作品を読み直す魅力を、エッセーで紹介する新連載。毎月1回、作家・翻訳家の松田青子さん=写真左=と脚本家の大野裕之さん=同右=が、交代で担当します。初回は松田さんが、笙野頼子さんの1994年の芥川賞受賞作「タイムスリップ・コンビナート」を取り上げます。電車の旅を描いた幻想的な短編に、松田さんが自身の経験を重ねつつ、今に生きる同作の感覚を伝えます。